

# 第 128 回日耳鼻長崎県地方部会

## 学術講演会 プログラム抄録集



日時：平成 20 年 12 月 14 日（日）午前 9 時 55 分より

場所：アルカス佐世保（佐世保）

### 〈ご案内〉

- ◆ 会場は、アルカス佐世保 3 階の大会議室 A, B です。  
(JR 佐世保駅より徒歩 5 分、TEL0956-42-1111)
- ◆ 器械展示を大会議室 C で行います。
- ◆ 専門医の方は学術集会参加報告書(平成 20 年度用)をご提出下さい。

### 〈演者の方へ〉

- ◆ 一般演題の口演時間は 7 分以内、討論は 3 分以内です。時間厳守をお願いします。スクリーンは 1 面でプレゼンテーションには Windows Power Point2007 及び 2000 を使用します。Mac 使用の方は Windows ファイルに変換して、文字ずれ・文字化けなど無いことを確認してから CD-R またはフラッシュメモリーでご持参下さい。スライド枚数に制限はありませんが、発表時間を厳守してください。

### 〈抄録原稿の書き方について〉

- ◆ 日耳鼻会報増刊号への掲載はありませんが、事務局への提出は行います。日耳鼻提出用の抄録原稿は本抄録に掲載された内容といたします。変更を希望される場合のみ、学会当日に変更抄録をご提出下さい。なお、抄録原稿の書き方については、日耳鼻会報に記載された「地方部会講演抄録原稿の提出について」をご参考ください。



- ACCESS ● JR・MR佐世保駅から徒歩約5分  
● 西九州自動車道佐世保みなとインターから車で約5分  
● 長崎空港からバスで約80分

★会長挨拶 (9:55~10:00)

高橋晴雄(長崎大)

第Ⅰ群：耳・鼻症例 (10:00~10:30)

座長 奥竜太 (佐世保総合)

- 1 当科における外傷性顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術の術後成績  
○北岡杏子・藤山大祐・川田晃弘・吉田晴郎・隈上秀高・高橋晴雄  
(長崎大)
- 2 下眼瞼向き眼振を呈した症例の検討  
○道祖尾弦・藤山大祐・川田晃弘・吉田晴郎・隈上秀高・高橋晴雄  
(長崎大)
- 3 メーリングリストによる長崎県下スギ、ヒノキ花粉症患者への花粉飛散情報提供について (第2報)  
○高崎賢治・寺門万里子・高橋晴雄 (長崎大)  
高村博光・吉見龍一郎・浜崎潤・江上徹也・宮崎充 (長崎市)

第Ⅱ群：腫瘍症例 (10:30~11:00)

座長 田中藤信 (長崎大)

- 4 下咽頭癌放射線治療後の頸動脈仮性動脈瘤に対する塞栓術後に膿瘍・瘻孔形成した1例  
○山口仁平・宗謙次・岩永哲・小室哲 (長崎医療センター)
- 5 民生用デジタルカメラを用いたハイスピードムービー撮影による声帯の観察  
○坂口功一・金子賢一・田中藤信・高野篤・陣内進也・西秀昭・高橋晴雄  
(長崎大)・井上真郷 (早稲田大学 先進理工学部 電気・情報生命工学科)
- 6 第一鰓溝性瘻孔の1例  
○畑地憲輔・桂資泰・眞田文明 (長崎市民)

第Ⅲ群：腫瘍症例 (11:00~11:30)

座長 金子賢一 (長崎大)

- 7 術後総頸動脈瘤を形成し大出血を繰り返した下咽頭癌例  
○高野篤・田中藤信・陣内進也・西秀昭・坂口功一・金子賢一・高橋晴雄  
(長崎大)

- 8 嚢胞変性を呈した巨大副甲状腺腫瘍の2例  
○奥竜太・渡邊毅・穂山直太郎・安達朝幸（佐世保総合）  
宗英吾（嬉野医療センター）
- 9 上顎骨に発生した石灰化嚢胞性菌原性腫瘍の1例  
○安達朝幸・奥竜太・穂山直太郎・渡邊毅（佐世保総合）  
岩崎啓介（同病理部）

★同門会学術奨励賞受賞論文講演（11：30～12：10）

司会 同門会々長 中島成人 先生

2008年 吉田晴郎 先生

演題名：Anatomy of the bony portion of the Eustachian tube in tubalstenosis:  
Multiplanar Reconstruction Approach.

2008年 宗謙次 先生

演題名：The olfactory conditioning in the early postnatal period stimulated  
neural stem/progenitor cells in the subventricular zone and increased  
neurogenesis in the olfactory bulb of rats.

★日耳鼻学校保健医療委員会

「アレルギー調査について」の報告（12：10～12：20）

山野辺滋晴

★長崎県耳鼻科病診連携研究会総会（12：20～12：40）

進行・挨拶 青木眞二  
会計報告 高崎賢治

★閉会

## 1. 当科における外傷性顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術の術後成績

○北岡杏子・藤山大祐・川田晃弘・吉田晴郎・隈上秀高・高橋晴雄（長崎大）

顔面神経麻痺に対する手術治療はその適応も含め未だ議論の残るところであるが、外傷性顔面神経麻痺に関しては積極的な手術を支持する意見が多い。今回我々は当科で2003年6月から2008年7月までに手術を行った4症例について顔面神経減荷術について検討した。対象症例はすべて高度麻痺であり、受傷から手術までの日数は平均16.8日であった。当院での症例では術前スコアが4点、術後は25点と改善があった。このうち完全回復は1例である。

### 【参考文献】

Darrouzet V, et al : Management of facial paralysis resulting from temporal bone fractures: Our experience in 115 cases. : Otolaryngol Head Neck Surg 2001 : 125 ; 77-84

## 2. 下眼瞼向き眼振を呈した症例の検討

○道祖尾弦・北岡杏子・藤山大祐・川田晃弘・吉田晴郎・隈上秀高・高橋晴雄  
(長崎大)

注視眼振検査における下眼瞼向き眼振は、小脳をはじめとする中枢性疾患で認められることが多く、これまで蓄積された知見からその診断は必ずしも困難ではない。しかし、一方では下眼瞼向き眼振の40%は原因が不明とする報告もある。そこで今回、我々は1998年から2008年まで当科で経験した下眼瞼向き眼振を呈した症例の原因を集計したところ脊髄小脳変性症が最も多く、次いで薬剤中毒であった。集計結果に文献的考察を加え症例とともに提示する。

### 【参考文献】

Wangner JN, et al: Downbeat nystagmus: aetiology and comorbidity in 117 patients : J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008 ; 79 ; 672-677

### 3. メーリングリストによる長崎県下スギ、ヒノキ花粉症患者への花粉飛散情報提供について（第2報）

○高崎賢治・寺門万里子・高橋晴雄（長崎大）  
高村博光・吉見龍一郎・浜崎潤・江上徹也・宮崎充（長崎市）

我々は、2006年より、長崎県医師会、長崎県検査技師会の協力下に、メーリングリストによる、スギ、ヒノキ花粉の情報提供を行なっている。この結果と課題について報告する。実施期間は毎年2月から、5月1日までで、参加希望者に月曜から金曜まで花粉情報を提供した。花粉情報を受信した人は各年185、196、297人であった。アンケート結果では、82、93、93%の人が、翌年の情報提供を希望していたが、20歳前後の利用者が少なかった。

#### 【参考文献】

高崎賢治、他：メーリングリストによる長崎県下スギ、ヒノキ花粉症患者への花粉飛散情報提供の試み：長崎県医師会報 2008：731；27-29

#### 4. 下咽頭癌放射線治療後の頸動脈仮性動脈瘤に対する塞栓術後に膿瘍・瘻孔形成した1例

○山口仁平・宗謙次・岩永哲・小室哲（長崎医療センター）

頭頸部癌治療後に仮性動脈瘤から大量出血をきたすことは臨床上まれに経験される。頸動脈に仮性動脈瘤が発生する機序として、手術、外傷、感染などにより菲薄化した血管壁が破綻することが考えられている。発生の誘因として放射線照射が挙げられる。今回われわれは、頸動脈仮性動脈瘤に対して塞栓術を行い約1年後に膿瘍・瘻孔を形成した症例を経験した。本症例の経過、治療に関して若干の文献的考察を加え報告する。

##### 【参考文献】

神崎晶、他：甲状腺癌術後、放射線照射後に生じた仮性動脈瘤の1症例：静岡赤十字病院研究報 1997；17；70-73

Shau-Hsuan Li, et al : Pseudoaneurysm of the external carotid artery branch following radiotherapy for nasopharyngeal carcinoma : Jpn J Clin Oncol 2007；37；310-313



## 5. 民生用デジタルカメラを用いたハイスピードムービー撮影による声帯の観察

○坂口功一・金子賢一・田中藤信・高野篤・陣内進也・西秀昭・高橋晴雄（長崎大）・井上真郷（早稲田大学 先進理工学部 電気・情報生命工学科）

声帯の振動を詳細に観察できれば嗄声の原因の解明につながるが、ストロボスコーピー等の従来の方法では不十分な点があった。今回われわれは1秒間に1200フレームのハイスピードムービー撮影が可能なデジタルカメラを用いて、声帯振動を直接観察し、さらには自作のソフトウェアでkymographyを作成して振動の様子を解析することに成功した。本法により低コストで簡便に個々の声帯振動の観察が可能となり、臨床的にも十分応用できると考えている。

## 6. 第一鰓溝性瘻孔の1例

○畑地憲輔・桂資泰・眞田文明（長崎市民）

先天性鰓溝性奇形のなかでも第一鰓溝由来のものは比較的まれである。今回我々は第一鰓溝性瘻孔の1例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。症例は43歳女性。幼少期から続く左耳漏と繰り返す左耳下部腫脹を主訴に当科受診。左外耳道軟骨部に下方に向かう瘻孔を認め、瘻孔より造影剤を注入しCTを施行。第一鰓溝性瘻孔と診断されたため、瘻孔摘出を行った。術後に顔面神経麻痺は認めず、経過良好である。

### 【参考文献】

岸本曜、他：第一鰓溝性瘻孔例：耳鼻臨床 2004：97；825-828

柗山幹子、他：第一鰓溝瘻孔および嚢腫の6例：耳鼻 1990：36；264-270

## 7. 術後総頸動脈瘤を形成し大出血を繰り返した下咽頭癌例

○高野篤・田中藤信・陣内進也・西秀昭・坂口功一・金子賢一・高橋晴雄（長崎大）

今回われわれは術後に総頸動脈に仮性動脈瘤を形成し大出血を繰り返した下咽頭癌症例を経験したので報告する。

症例:75歳男性。下咽頭癌に対して平成19年8月16日下咽頭頸部食道摘出術、遊離空腸による食道再建術施行。8月27日の透視で縫合不全を認めたため翌日咽頭皮膚瘻を作成した。9月5日、9日に咽頭皮膚瘻から大出血を来し、再開創したが出血点は確認できなかった。9月11日も出血し、血管造影を行ったところ右総頸動脈に仮性動脈瘤を確認しコイル、ステントで止血した。

### 【参考文献】

片岡英幸、他：下咽頭癌術後出血を動脈塞栓術により止血した症例：JOHNS 2001：17；1790-179

Chaer RA, et al : Endovascular treatment of traumatic carotid pseudoaneurysm with stenting and coil embolization : Ann Vasc Surg 2008 : 22 ; 564-7

## 8. 嚢胞変性を呈した巨大副甲状腺腫瘍の2例

○奥竜太・渡邊毅・穂山直太郎・安達朝幸（佐世保総合）  
宗英吾（嬉野医療センター）

副甲状腺嚢胞とは、副甲状腺の一部または全部に嚢胞構造を持つものであり、まれに著しく増大して頸部腫瘍として気付かれることがある。今回、巨大な副甲状腺嚢胞の2例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

術前には良性甲状腺腫瘍を疑ったために、副甲状腺ホルモンを測定していなかったことが反省点である。機能性と非機能性に分類され、今回の2例は術前のカルシウムは正常値であったため非機能性と考えた。

### 【参考文献】

Wani S, et al : Atypical cystic adenoma of the parathyroid gland: case report and review of literature : Endocr Pract 2005 : 11 ; 389-93

## 9. 上顎骨に発生した石灰化嚢胞性歯原性腫瘍の1例

○安達朝幸・奥竜太・穂山直太郎・渡邊毅（佐世保総合）  
岩崎啓介（同病理部）

上顎骨に発生した石灰化嚢胞性歯原性腫瘍(CCOT)の1例を経験した。症例は13歳男性で数ヶ月前からの口臭を主訴に平成20年7月、近医歯科を受診。レントゲン異常陰影などにて当院歯科紹介となり、CTにて右上顎部に腫瘍性病変を認め当科紹介となった。術中迅速病理検査ではエナメル上皮腫の診断であったが、永久標本にてCCOTの確定診断を得た。比較的稀なCCOTについて若干の文献的考察を加えて報告する。

### 【参考文献】

- 伊藤亜希、他：上顎洞に拡大した歯牙腫を伴う石灰化嚢胞性歯原性腫瘍の1例：  
日口外誌 2006：52；532-536
- 橋本和彦、他：歯牙腫を伴い上顎洞に充満した石灰化嚢胞性歯原性腫瘍の1例：  
日口外誌 2007：53；613-617

## 同門会学術奨励賞受賞論文講演 吉田晴郎

演題名 : Anatomy of the bony portion of the Eustachian tube in tubal stenosis :  
Multiplanar Reconstruction Approach.

雑誌名 : Ann Otol Rhinol Laryngol 2007 : 116 ; 681-686

英文抄録 :

Objectives: To clarify possible pathological conditions of the bony portion of the eustachian tube (ET) in patients with ET stenosis.

Methods: We measured the cross-sectional area of the bony frame, and the air space of the ET lumen by using CT images of 20 normal subjects (control group) and 25 patients with stenotic ET (stenotic group).

Results: The soft tissue ratio was significantly greater in most parts of the mid-bony portion and the tympanic orifice of the stenotic group than in the control group. At the anterior tip of the bony portion, only the bony frame was found to be significantly smaller in the stenotic group than in the control group.

Conclusions: We suggest that the smaller framework of the bony ET may possibly be related to the pathogenesis of ET stenosis.

和文抄録 :

目的 : 耳管狭窄症患者の骨部耳管にどのような狭窄所見があるかを調べる。

方法 : 20名の正常者と25名の耳管狭窄症患者に対し、多断面再構成法を用いたCT画像から骨部耳管の①骨枠断面積、②内腔断面積、及び③両者の比率をとることにより、①、②いずれかあるいは両者が狭窄の原因となっているのかを検討する。

結果 : ③は骨部耳管中点～鼓室口にかけて狭窄症患者で大きく、峽部付近では①のみが狭窄症患者で小さい結果が得られた。

結語 : 今回の検討では、骨枠断面積の狭小化が耳管狭窄症患者で狭窄所見を呈する原因である可能性が考えられた。

## 同門会学術奨励賞受賞論文講演 宗謙次

演題名 : The olfactory conditioning in the early postnatal period stimulated neuronal stem/progenitor cells in the subventricular zone and increased neurogenesis in the olfactory bulb of rats.

雑誌名 : Neuroscience 2008 : 151 ; 120-128

英文抄録 :

The olfactory memory acquired during the early postnatal period is known to be maintained for a long period, however, its neural mechanism remains to be clarified. In the present study, we examined the effect of olfactory conditioning during the early postnatal period on neurogenesis in the olfactory bulb of rats. Using the bromodeoxyuridine-pulse chase method, we found that the olfactory conditioning, which was paired presentation of citral odor (conditioned stimulus) and foot shock (unconditioned stimulus) in rat pups on postnatal day 11, stimulated the proliferation of neural stem/progenitor cells in the anterior subventricular zone (aSVZ), but not in the olfactory bulb, at 24 h after the conditioning but the number of newborn cells in the olfactory bulb was increased at 2 weeks after such conditioning. Neither the exposure of a citral odor alone nor foot shock alone affected the proliferation of neural stem/progenitor cells in the aSVZ and the number of newborn cells in the olfactory bulb. The majority of newborn cells in the olfactory bulb of either the conditioned rats or the unconditioned rats expressed the neural marker NeuN, thus indicating that the olfactory conditioning stimulated neurogenesis in the olfactory bulb. These results suggest that newborn neurons in the olfactory bulb originating from aSVZ might therefore be involved in the olfactory memory in rats.

和文抄録 :

目的 : におい記憶の機序は未だ明らかではないが、嗅覚の一次中枢である嗅球では神経新生が起こることがわかっている。そこで我々は、におい学習が神経新生に与える影響について調べた。

方法 : におい刺激と電気刺激による連合学習を行ったラット (生後 11 日目) に増殖細胞の指標である BrdU (BromodeoxyUridin) を投与し、におい学習後の脳を蛍光免疫組織化学染色法により解析した。

結果 : におい学習群では、24 時間後、側脳室下帯の BrdU 陽性細胞が増加しており神経幹細胞の増殖能活性化が示された。同群の嗅球では 2 週間後、BrdU 陽性細胞が増加しており、そのほとんどが神経細胞のマーカーである NeuN 陽性であることから、学習により嗅球の新生神経細胞数が増加したことが示された。

結語 : 側脳室下帯の神経幹細胞は、徐々に分化しつつ嗅球に到達し神経細胞となることが知られている。今回の結果は、におい学習により側脳室下帯の神経幹細胞の増殖能が活性化され、さらに嗅球へと移動分化する神経細胞が増えることにより嗅球の神経新生が増加したものと考えられた。本研究により、神経幹細胞からの神経新生がにおい記憶機序のひとつである可能性が示唆された。